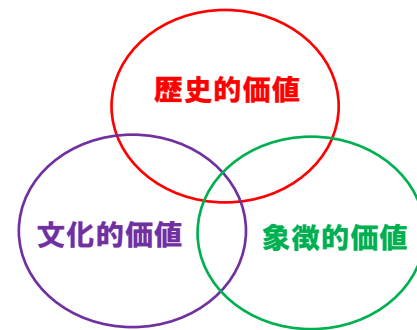


仙台城跡における本質的価値

仙台城跡には大きく3つの価値が認められます。一つ目は、日本有数の大大名だった伊達家の居城、藩政の中心である城郭としての歴史的価値。二つ目は、藩祖政宗が従来の伝統を重んじながらも上方の新しい文化を取り入れ、後世へと継承された特色ある伊達文化の原点としての文化的価値。そして三つ目は、近世から現在まで様々な土地利用を経つつも、それに関わった人々の思いが集まった仙台の象徴としての価値です。

仙台城跡では、これらの価値が、互いに重複しながら一体となり史跡としての全体的価値を構成しています。

- ① 良好に残る城郭全体の基本的形状と各遺構
- ② 本丸北壁石垣の変遷と城内の石垣にみる変化
- ③ 時代を反映した城郭構造
- ④ 政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物
- ⑤ 仙台の象徴



① 良好に残る城郭全体の基本的形状と各遺構

仙台城跡は、明治維新後の火災や破却、戦災等により、藩政期の歴史的建造物がほぼ失われています。しかしながら、本丸、二の丸、三の丸（東丸）といった主要な曲輪や登城路など城郭の基本的形状は全体として良好に保たれ、石垣、土塁、堀跡、門跡などの遺構が随所に残されています。



仙台城跡の基本的形状

さらに、城内水利の供給源でもあった青葉山の自然林、天然の要害としての竜の口溪谷、外堀ともいえる広瀬川といった豊かな自然環境が、城郭としての特性をより深めており、各遺構とともに歴史的景観をかたち造る重要な要素となっています。

なお、城内には多くの未調査箇所があり、今後の調査によって発見される遺構や遺物も史跡の本質的価値を構成する重要な要素となります。

② 本丸北壁石垣の変遷と城内の石垣にみる変化

本丸北壁石垣の解体修復に伴う発掘調査では、3時期にわたる石垣の変遷や内部構造が確認され、その築城の様子が明らかにされました。ここで確認された石垣の変遷は、城内の随所に残る石垣の構築年代や歴史的意義を検討する上でも重要な成果です。

また、城内に残る石垣にはいくつかの異なる特徴が認められます。これは、構築年代の差を示唆する一方で、主に大手道上での視覚的な演出や修復の履歴といった城郭の歴史自体を反映しているとみられ、仙台城の理解を深める上で高い価値を有しています。



本丸における3時期の石垣

③ 時代を反映した城郭構造

仙台城跡は、築城期における本丸の山城的性格と後に造営された二の丸の平城的性格が併存する城郭構造に特徴があり、これは徳川政権の確立へ向かう政治情勢の過程を反映している点で重要です。

二の丸造営後、仙台城は藩政に関わる施設が飛躍的に充実し、藩庁としての行政機構を整えていきます。敷地の拡張も経て完成した二の丸御殿は、大手門と一体に近世城郭らしい風格ある威容を誇っていました。また本丸では、藩庁が二の丸に移った後も、公的儀式の場として大広間や城下を一望する懸造など一部の建物が藩政期を通じて維持されました。本丸は、築城期の軍事的性格とは異なる機能をもった空間となり、二の丸御殿とともに政宗以後の仙台城を特徴付けていました。



大橋付近からみた明治初期の仙台城跡
仙台市博物館所蔵

④ 政宗らしさをうかがわせる特色ある遺構と遺物

これまでの発掘調査によって、藩祖政宗の特色を示す建物群やその利用の実態が明らかにされつつあります。

本丸には大広間を中心とした桃山期の特色を受け継ぐ御殿群があり、北壁石垣の調査で出土したヨーロッパ産ガラス器や金箔瓦を含む近世初期の遺物群は、そのまともりにおいて希少な資料といえます。一方、政宗の下屋敷があった三の丸（東丸）では、池や茶室の跡と共に高級茶器等が確認されています。公的空間を含む本丸に対する私的空間としての役割の違いから、政宗の公私にわたる生活の一旦をうかがうことができます。



遺構表示された本丸大広間

また、下屋敷に近い造酒屋敷跡は、奈良から招かれた職人が城内に屋敷を与えられ酒造りを行った全国的にも極めて珍しい場所で、それを裏付ける建物跡や遺物が確認されています。この場所は、酒を愛し数々のエピソードを残した政宗の人となりうかがえる空間として高い価値を有しています。

政宗は、従来の伝統を重んじつつも上方や海外から新しい時代の息吹を汲み取り、仙台の地に自らの特色ある文化を築き上げました。それは歴代の藩主へも継承され、その影響は江戸時代の庶民にも及び、現在にいたる様々な方面への広がりを見せていきます。仙台城跡は、このような文化のはじまりの場所として高い価値を有しています。

⑤ 仙台の象徴

仙台城（跡）は、近世から現在に至るまで仙台の象徴としての役割をはたしてきました。近世には伊達家の居城、藩政の中心としての権威の象徴、近代以降は本丸跡が公園等として、二の丸跡が軍隊や大学として利用される中で、周囲の自然とともに仙台を象徴する場所となっていきました。

仙台城跡は現在、我が国を代表する近世城郭として国指定史跡となり、その一部は、藩政期より保護されてきた都市近郊の貴重な自然林である国の天然記念物青葉山として指定されています。人の手による城郭と手つかずの自然をあわせもつ仙台城跡は、近世から現在に至るさまざまな土地利用を経ながら、それに関わった人々の思いが集まった杜の都仙台の象徴としてふさわしい場所です。



市街地からみた仙台城跡